

# 公益法人

2011

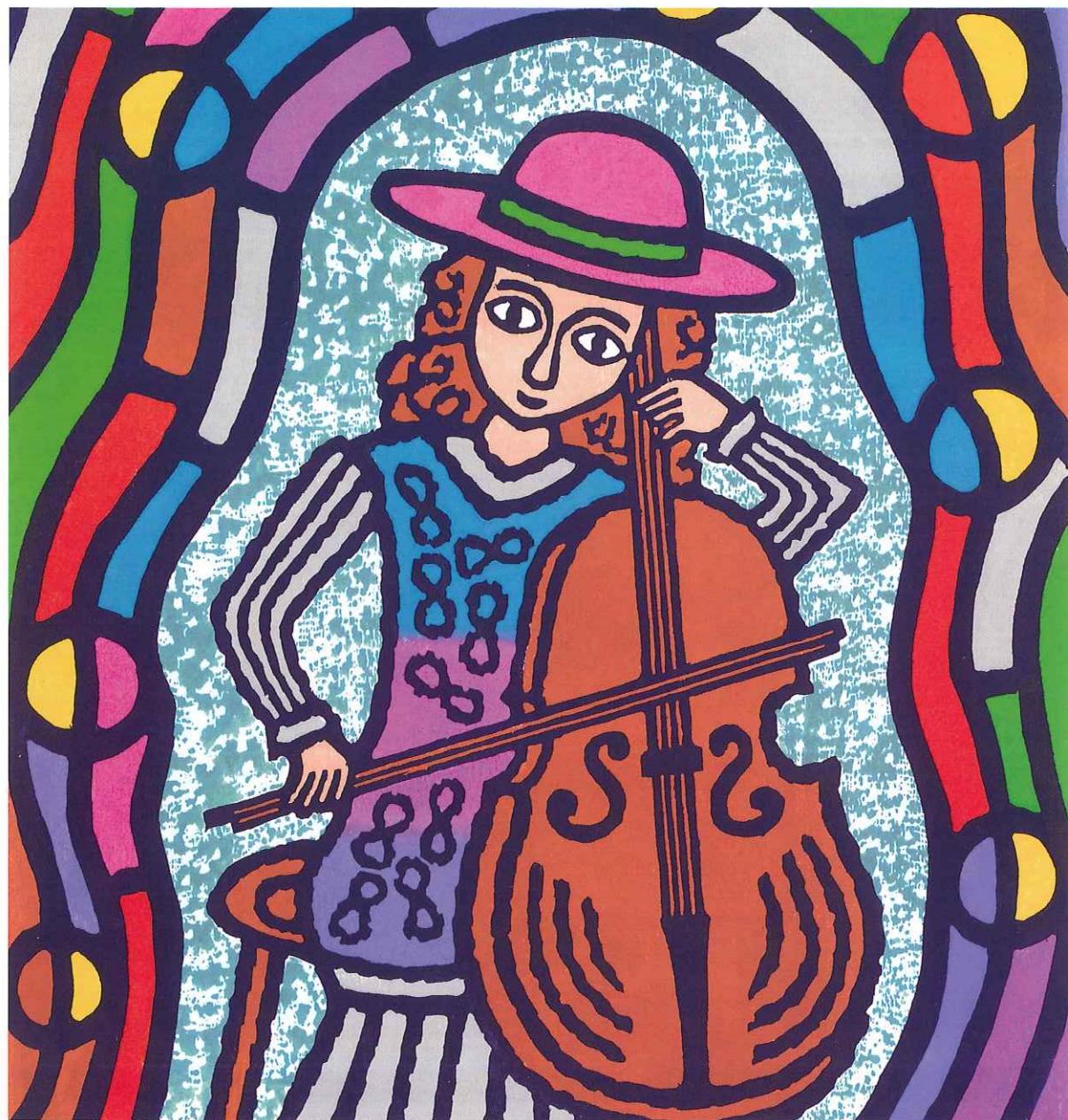
12

VOL. 40

No. 12

第40巻第12号 平成23年12月1日発行(毎月1回1日発行)

■[シンポジウムレポート]自然災害と市民社会組織の役割—東日本大震災の経験から—  
■税制改正緊急アンケート結果 ■公益法人の復興支援活動⑥ ■新制度移行への取組み



公益財団法人 公益法人協会

巻頭言

## 奥が深い「脂質」の世界

公益財団法人 小野医学研究財団  
理事長 福島大吉

当財団は、内閣府から認定を受け、本年4月1日から公益財団法人として新たなスタートをいたしました。短期間で新制度移行ができたのは、公益法人協会や内閣府の担当の方々による一方ならぬ丁寧なご指導の賜物であり、まずはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

振り返りますと当財団は本年で設立24年目を迎えますが、会長の早石修先生(現・大阪バイオサイエンス研究所理事長)のご指導のもとに、一貫して「脂質代謝」に関する研究への助成を軸とした事業を進めてまいりました。財団の設立当時、脂質代謝は基礎の先生方のご努力による、どちらかといえば地味な研究分野でした。しかし、生活習慣の劇的な変化により、脂質代謝の異常は遠からず健康上の大きな問題になるだろうという予測から、あえて限定した分野に絞った助成活動を開始したのです。四半世紀後、分子生物学や機器分析技術の急速な進歩により、

遺伝子、蛋白質に続いて脂質が医学・生物学上の重要なテーマになってきたことは周知の事実です。更に、臨床医学研究の努力により、脂質代謝の異常は単に生活習慣病のみならず、神経難病や癌の発症など、医学の極めて広い分野に影響を与えることが分かり、国民の健康を語る際に脂質の重要度は高くなってまいりました。

このような背景のもと、財団では過去23年間に総数2,000件に及ぶ研究助成のご応募をいただき、選考委員の先生方による厳正な審査に基づき、約400件の助成を行ってまいりました。これらのご研究が後に大きく華開き、医学における日本発のエポックとなったことは、財団といたしましても誠にうれしい事であります。

脂質の研究における私どもの活動は、僅かな、それも限られた領域での貢献にすぎないかもしれませんが、前述のように医学における脂質研究の影響度は日々増しており、誠に奥が深い研究分野であることを改めて感じております。脂質代謝の研究が日本人の健康を考えていく上で明確な道標になることは確実であり、当財団の目的とする国民の健康と福祉の向上に寄与するため、新制度移行を機に今後とも微力ながら努力していきたく思います。関係する皆様方からの、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

新公益法人制度施行4年目 ..... 連舫...2  
<シンポジウム2011>

自然災害と市民社会組織の役割—東日本大震災の経験から— .....3  
その時、公益法人は、どう動いたか⑥ .....11  
税制改正要望 緊急アンケート集計結果 .....16  
公法協「東日本大震災救援基金」総括 .....30  
[公益法人の新制度移行に向けた取組み]

日本郵趣協会、日本労働文化財団 .....18  
[公益法人実務担当者のための資産運用入門⑧]  
運用管理体制について(2) ..... 梅本洋一...24

[ひろば] 助古都飛鳥保存財団 .....27  
[都道府県レポート] 沖縄県における新公益法人制度への対応 .....28

□『公益法人・一般法人の運営実務』刊行 .....34  
□新聞報道から(10・1~10・31) .....36  
□フィラソロピーニュース .....37  
□分類総目次 .....40  
□事務局だより・編集後記 .....42

表紙・佐々成美